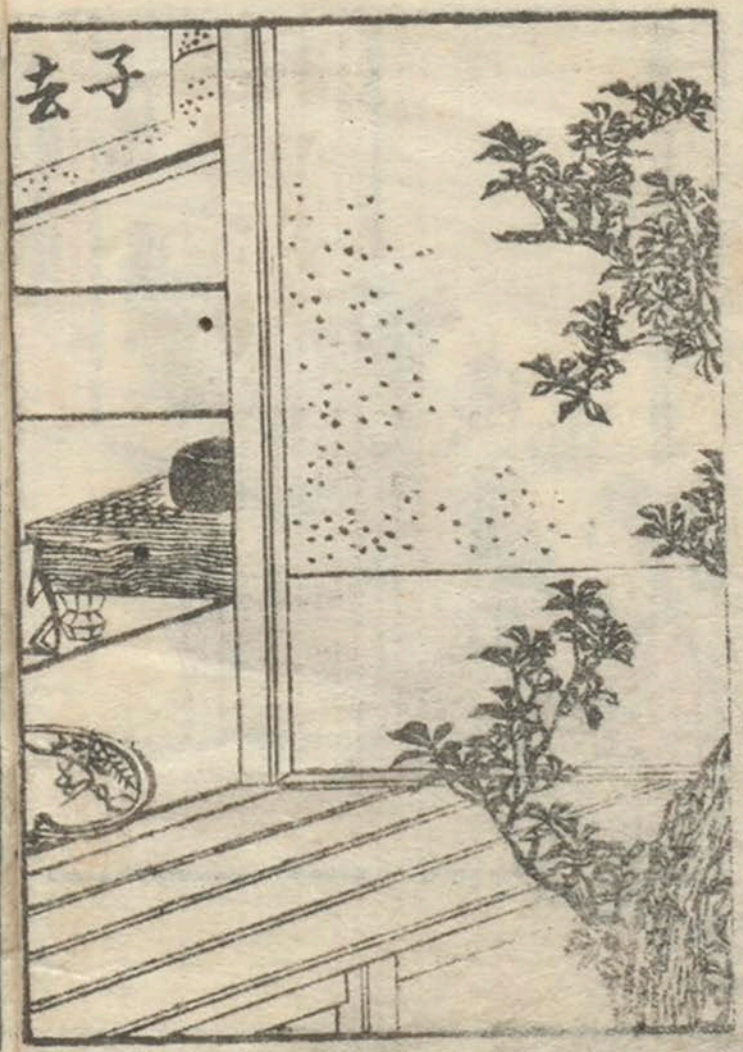
今川
從
入道

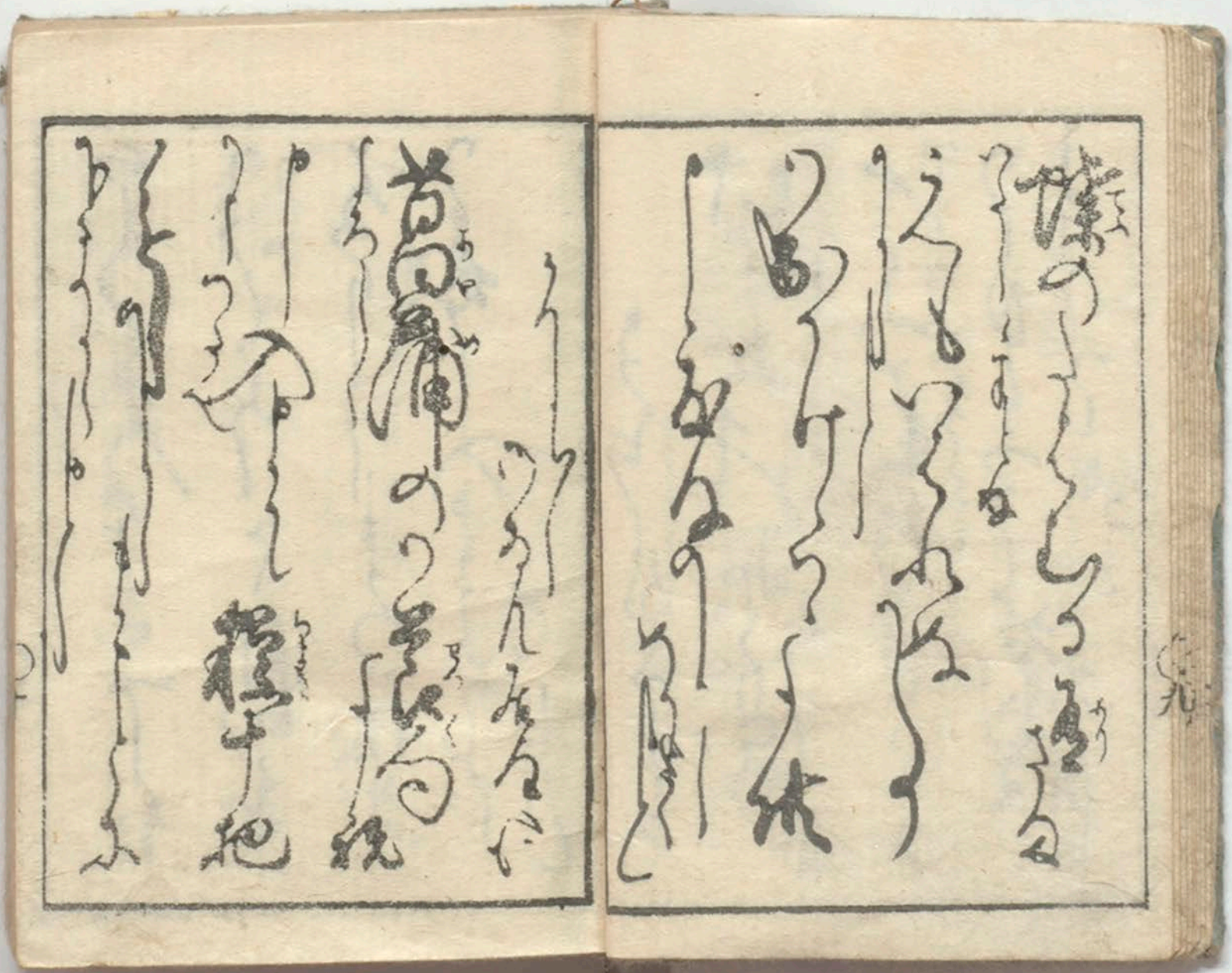
集百人一首

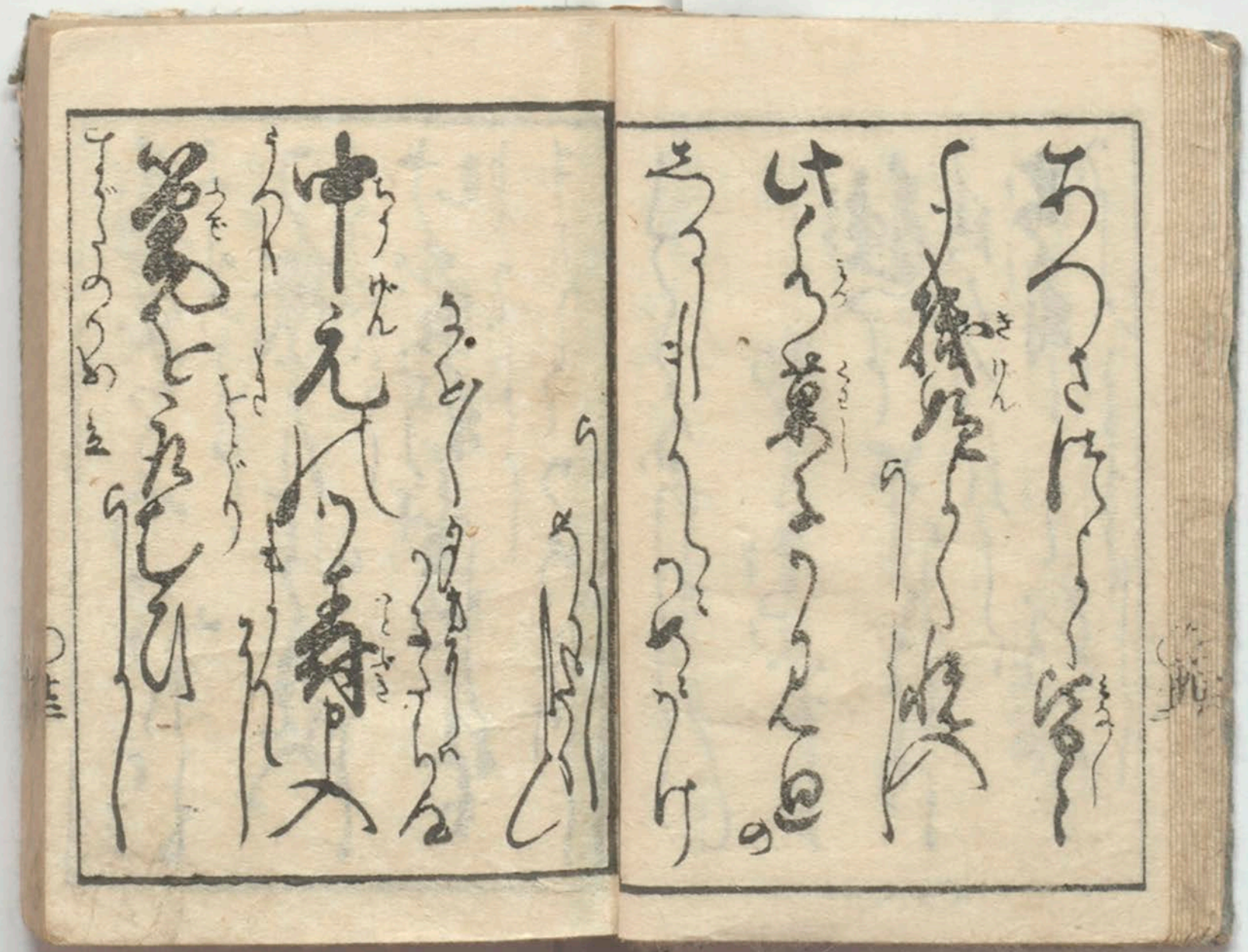
全

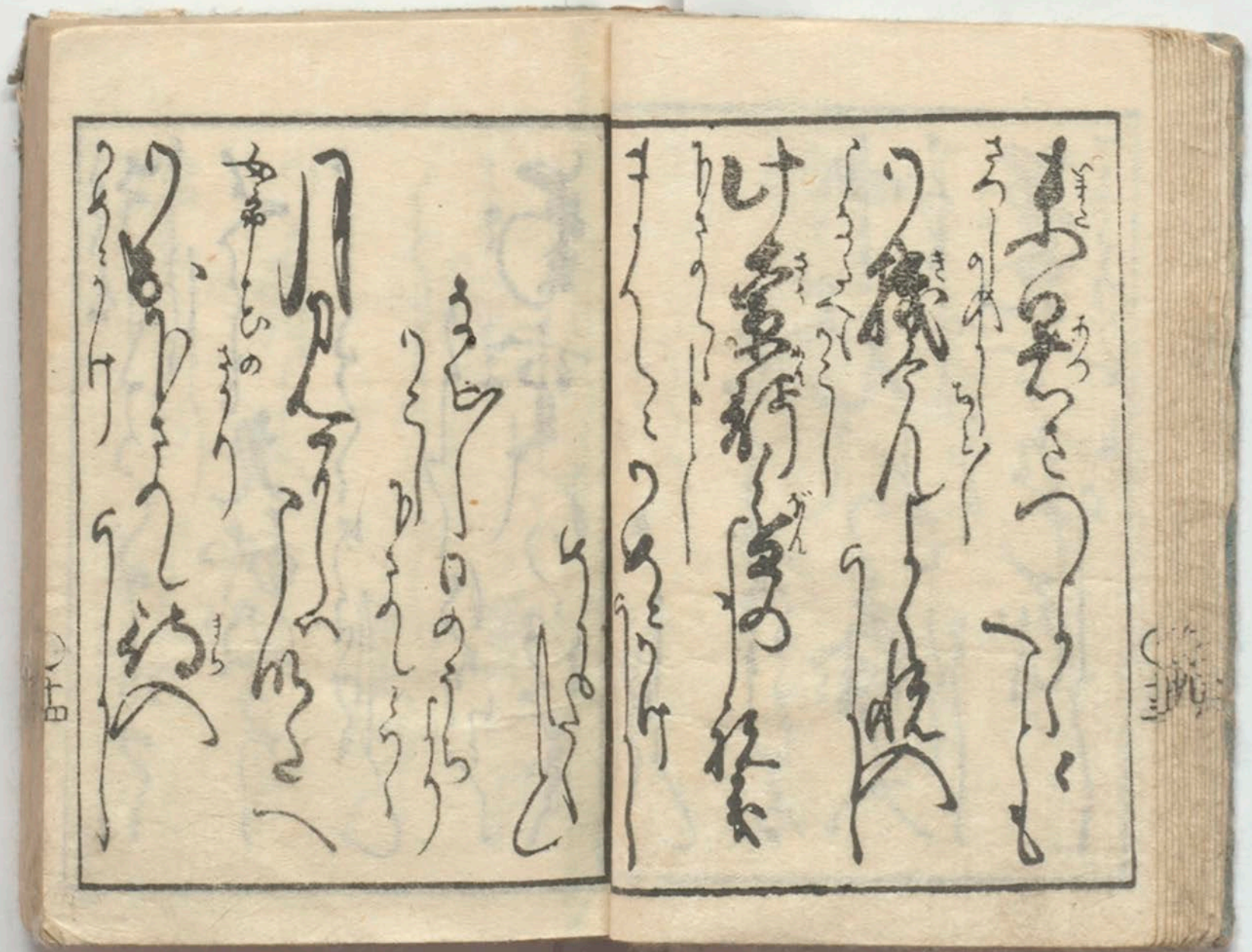
山中人


子去

太急
旅







持統天皇
春すぎて夏きたるらし
白たへの
衣ほすてふ
あまの
かぐ山

天智天皇
秋の田の
かりほの
いほの
とまをあらみ
わが衣手は
露にぬれつつ

柿本人丸
山もりの
おのれ
そうりの
なぶり
とひとりもねん
山部赤人
田ごとに
うちそそ
れば白
たへの
うづのそ
ゆきふりつ

猿丸太夫
おくやまに
もみぢふみ
なくしかの
こえきくときぞ
あきはかなしき
中納言家持
かすがの
さとふる
ゆきを
わけいつる
ひとぞこひしき

義仲
義仲
和尚

小野小町
蟬丸

参議堂
あのぢ
やたて
うけく
こだもち
くすのつぼよ
いまのほりよ

僧正遍昭
あまつかぜ
くもゐにまへる
をとめのすがた
しばしとどめん

陽成院

河原左大臣

光孝天皇
君がため
春の野に
出て
若菜つむ
我が衣手に
雪は降りつつ

中納言行平
立わかれ
いなばの
山の
峰に
生る
まつとしきかば
今かへりこん

伊勢

元良親王

宗祇法師
今こんと
ゐうふ
なりあけの
つきとまちの
おううな
文屋康秀
ふくかぜを
くさきの
しをれむ
むべ山を
あらしといふらん

大江千里

菅家

藤原兼家
わすれじの
ゆくすえまでは
かたからじ
こよひばかりの
ちぎりなりけり

貞信公
あきの
のもりの
つゆをだに
なぬしなしとて
はらはめや

中納言兼輔
みかの原
わきてなが
れいづる
いずみかな
ほとりうらん

源宗于朝臣
山がつの
かきねに
うゑし
しばしも
なかりけり
人めよくこそ
あらまほしけれ

紀友則

久方の
光のどけ
き春の日
しづこころ
なく花の散
らん

藤原興風

誰をかも
しる人
にせむ
高砂の
松も昔の
友なら
ぬ

紀貫之

人はいざ
心も知らず
ふるさと
は花ぞ
昔の
香に
匂ひける

きのつらゆき

きのとものり

恋のみだれ
しなづ
やうを
雲にいづ
月やはるん

文屋康秀
白つゆに
風の吹しく
秋の野は
つらぬきとめぬ
たまちるらむ
右近
わすらるる
身をば思へど
ちかひてし
人の命の
をしくもあるかな

参議等

平義盛

壬生忠見
清原元輔

中納言敦忠

謙徳公

恵慶法師
八重葎
さしげるやどの
まばらなる
人をとはなれ
ものかなしき

源重之
風をいたみ
岩うつ波の
おのれのみ
くだけてものを
おもふころかな

藤原実孝

藤原實方朝臣

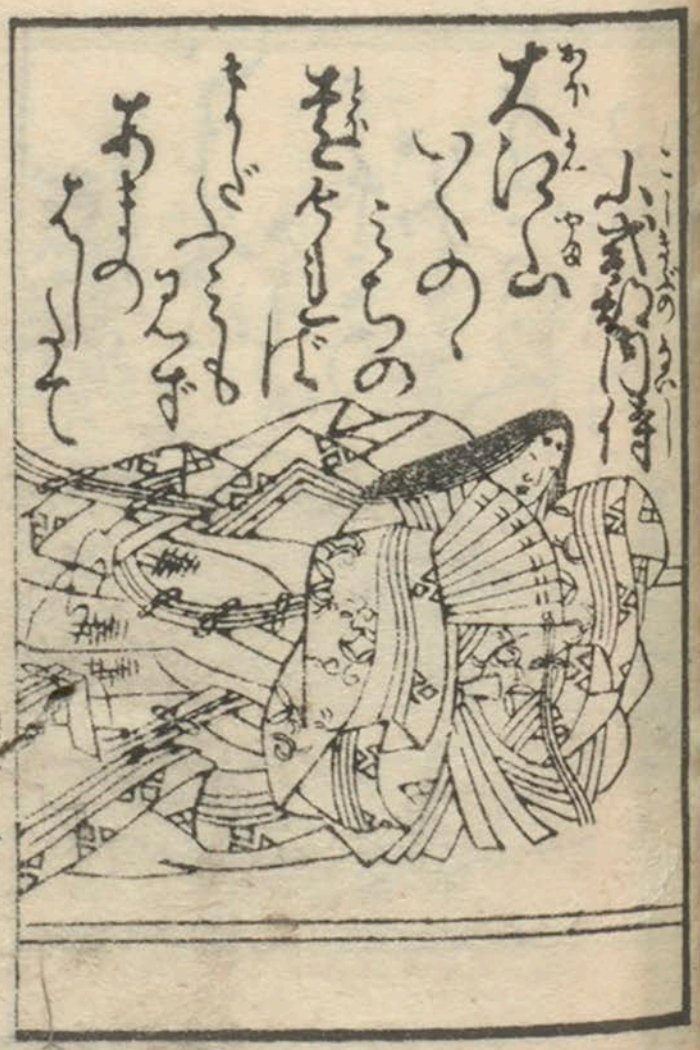
藤原道信朝臣

左衛門督經盛卿
なびきつ
ひかりの
ちるよの
ちるはまた
いろひさき
あやしらん
儀同三司卿
それのり
まもてい
のちひと
くたと
ゝぎりの
いのちもが
る

大納言公任
たまのまゆ
りてて
なりぬれど
おもかげ
たまぐし

ちくぜんのさんみ
業武朝
めぐりあひて
みしやそれとも
わかぬまに
くもがくれにし
月かな

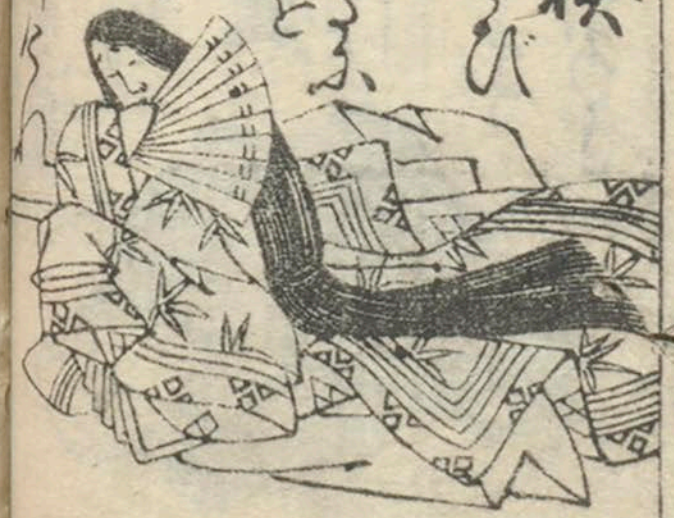
よのなかのさんみ
大納言佐
あらしふく
みねのもみぢ
ば
たつたがわ
にしきなりけ
り



左京亮遠雅

權中納言定頼

相模



三條院

法師

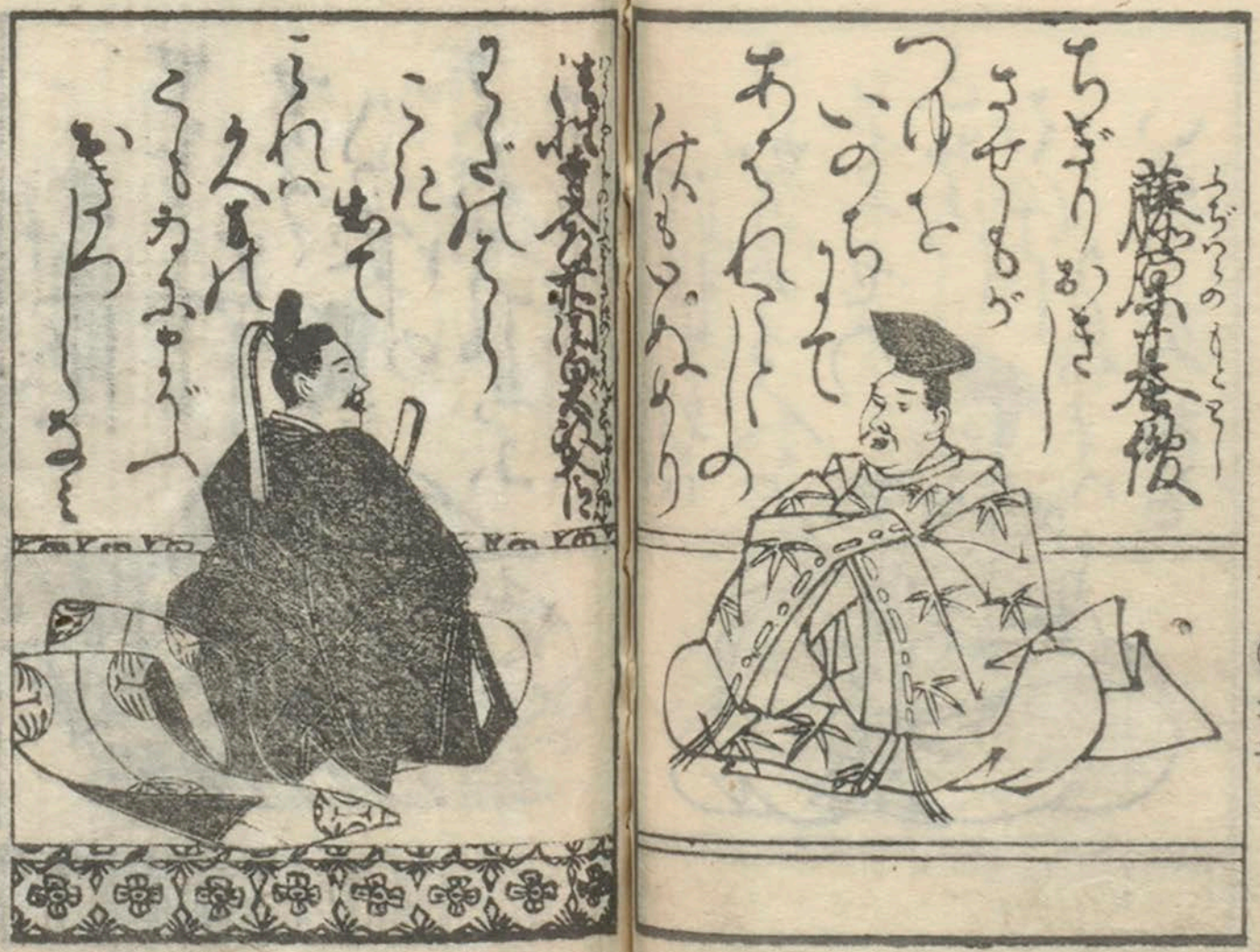
良選法師

大納言經信

祐高親王家

菅中納言匡房
ふるさとの
おのえの
さくら
ちるまがり
ふるのそらに
そびまう

源俊頼朝臣
うかりける人を
そうせの
山おろし
そげうれい
いのちあるあと


藤原基俊

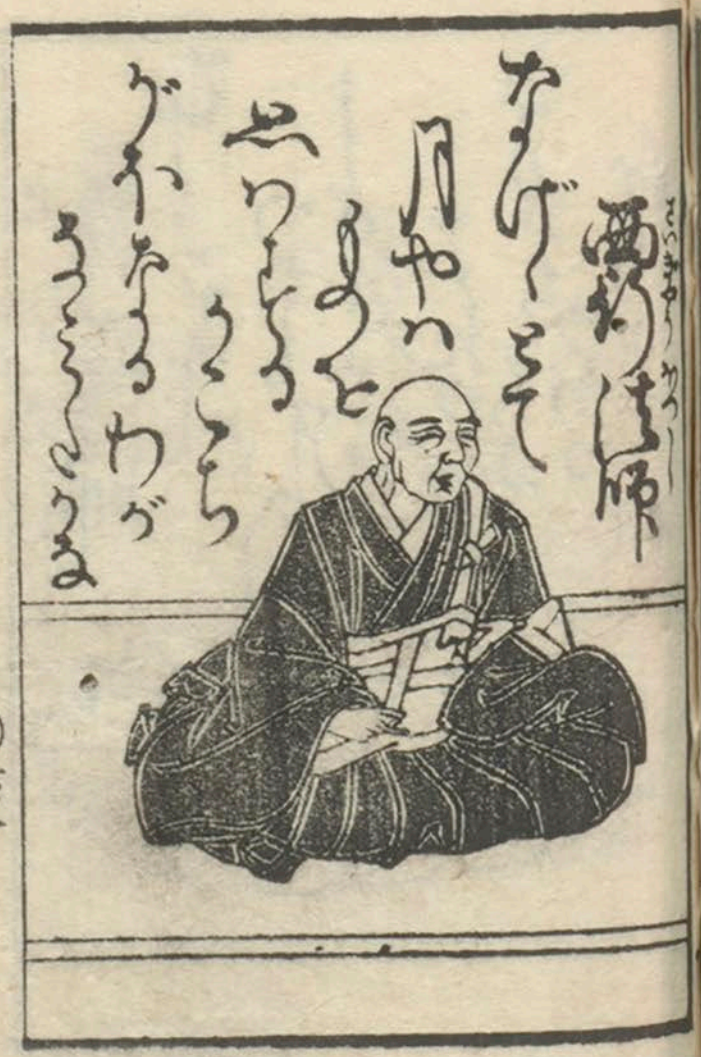
崇德院

なぶるもの
しんもの
ろうろうの
そばへ
はきい
あるく

後徳大寺左大臣
ほとゝぎす
なくこえを
きくとはなしに
ねぬるかな
月のでるまで

道因法師
思ひわび
さてもいのちは
あるものを
うきにたえぬは
なみだなりけり

僧恵海師
よもすがら
ものもとく
こころいと
あるりやうで
わやのひまさへ
つれなかりけり


西行法師
なにごとを
月やいと
ものとも
思つとも
こころ
ぐるしかるわが
こころかな

蓮法師
ひとりぬれ
つもる
まくらの
きりぎりす
なくこゑ
ねぬかたれ
なるこゑの
なりもせず
一つ
夕とつて
ぬるぎぬ

ひのとよ
ふくびん
たくれ
たくふ
このつるこの
よりもどする
武王周紀王

殷紂王
ひんやさ
とどねの
おまん
そぶ
めれもぞ
ぬまそ
ぬうど

鎌倉右大臣

参議雅経

夢人備正義園
おかけうう
うきよの
ふくろう
みちの
ひぐ
ろうそくまふ
ようぶんそくで

花さそふ
あらしの
にわの
ゆきぞうで
ふりゆくものは
こぞとなりけり

権中納言定家
こゝ人とまつかぜの
名をだに
やくやもしほの
身をこがれつ

正三位家隆
風そよぐ
なら
小川の
名ぞれ
みそぎぞなつの
ことぞ

後鳥羽院
順徳院

月の異名

正月　ゑんしゅ
二月　きさらぎ
三月　やよひ
四月　うづき
五月　さつき
六月　みなづき
七月　ふみづき
八月　はづき
九月　ながつき
十月　かんなづき
十一月　しもつき
十二月　しはす

女中対話

如今川

今川
如
て
如
を
ふまもる
制詞の際

一常人ごとに文盲
なる事なり道理明事
一悪女の言葉人を
害する事しかり

一小事ども最もなる事
考えて仏前に祈願
する事
一大事ども奉行

紙をとりあつめて
一孝事
一父母の恩を
ふかくして忠孝深
ふかくして
一妻を思ひ
長じて道を思ひ
一道をまもりて

ものとうるさく祝事

一正月ごとに寝ること

まれなるべしむつ

一遊び長く出れ

ざるとあるべき義

けんぶつとなれば事

一雑魚ばかりにて高りの

ふるまいの明と

船ばしり

一女は強利根

きれい義をふつる

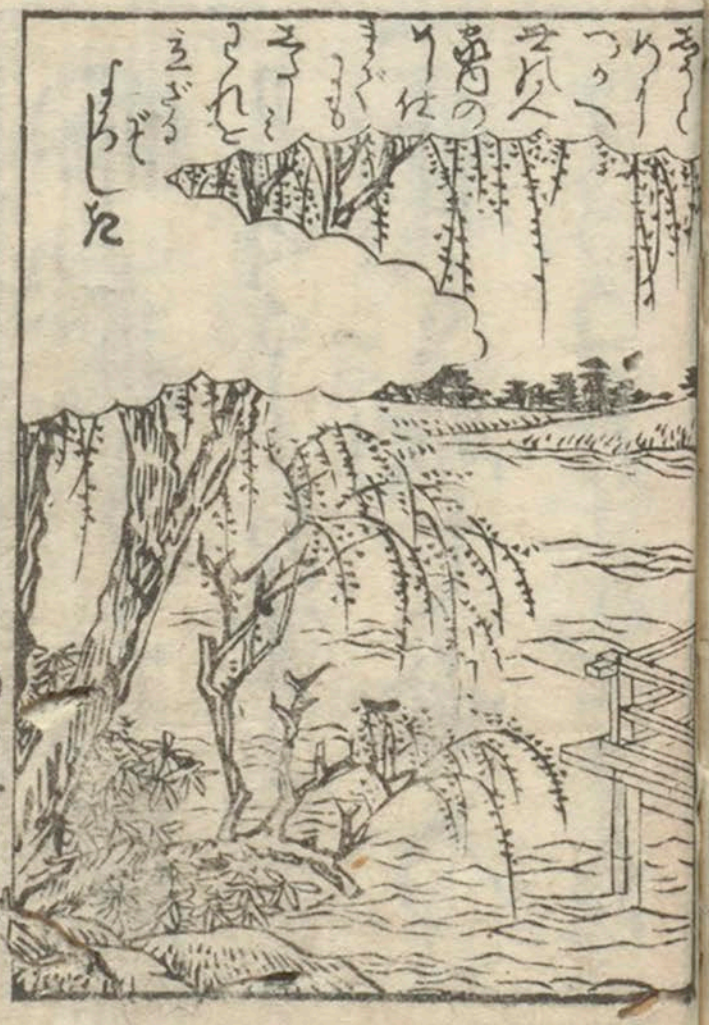
人とそうまい

一人の中言と金

ひれ越をはて家

身ひたのむも

一道具衣裳ゆ己



暉麗にして石仕
んぐりした事
一貴も賤も世の
ていたらくとうた

まんどう氣遣する事
一人の非をとりて
我れ知らずしてもて
一世家門と云ふ

いつも側ちかく
ゝる事
一私ふ淫とゝしび
ひろい淫者あい
不義ゝる事
一下人の義を
つゝまんと仕
ゝる所ぞ

一男女ともにそまつにして人のうしろをとゝのうるゆゑ

一結髪ゆゑ踊りうゝて

他人の男とゝ和神ゆゑ

一男ゝるゝ和ゝ

親類縁者ゝ

ゝゝ親とゝ

一和り指と塩入こ
に仕入偏へまのと
色ともりもり
一人まへ入れ五種屠蘇

ふきもせいりを
うつ花の事
衣紙障子つる
女人道ふぞり

うらくたる雲にいと
わびしきいづもの
れかはるべきうと
先月と辛らべきうへ

志とうかうして毎
年に和とうそぶ然
つふ美の人と世
小仏愛そうへ主小

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天地の乃花さわぐ
夫婦はなちて花
咲きわぐ夫と天の
ごとく新しむ

見侍女は春の
乃こと仁義礼智信の
五常つくの乃紅
仁義の一ちとまふ

こんぶ食べて　されば幼少の
時より心ゆるさぬ
主より仕ふるも　恨
うらむ方なしと申す

べうぶ水仙の花園の
美しく作れる人の色
つもふる賞うるれば
宮とはなる雅園と

家内和合するい男女
のまことにすぐれ
不和合にてうへ
しく女房事
おくれり姫の
初とうしてい
うのあれ
亡ぶる
傳をとり
いへり

すぐれ
女ハことに
ていふ
そうぞ
しく内と
まじわり
あ内の
和合する
オ一をり

いつくしき人の
ゆくへをたづねて
ありのまゝにつたへ
男子に師とむかへ

ゐとまなびうたを
ならひこゝろ女の
まなび裁ぬれば女の
道をしるべとなるべ

郎ふくろうに
掛さ沢をたり
くれなるい[illegible]
北のあり山まに

ほの[illegible]北さ行る
かくれぐつ母のく
に言らくい岩手ち
くれで来りとたに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こころをつくすと
うぐひすのなくこゑ
ふかきやまをつたへて
遠のかれ
とうとうとして
偏り
くちとり
信うるべからず
衣はぐ女の
道と辛りとく

男女相性吉祥和歌圖

男木女火　子六人内三人大ぶ初ぐ
あれどもけつき人命ながくもしぶ
のたりあり　とりてはとかり性れ
れに　そのふ　うる　のひびくやて
ばかりまたのき

男木女水　子六人うちまして命
ながし　くらぶ　とつよにまりて大ぶ
でんぢくにえんあり
外に　わるはこうち　ばかりたて世とまぢ

▲男女土大どう子三人又八九人
うきて金大荒神とまつるべし
三人つれもつとつべし

▲男女木子二人又八人うまつて
ちうぶ神とまつるべし

▲男土女火大どう子九人ありでんぐに
つたつまつるにかぐの神とまつるべし
くのまつるにたをし

▲男土女火大どう子人いまつるも多
く行るもくのまつるひびやうと金
なぐ地神とまつるべし

▲男金女水大どう子六人うまつて
金なぐでんぐに氏神とまつるべし

▲男金女土大どう子六人うまつて
天ぐと云る金なぐ下くまつる井ちふえん
ありまつるべし

▲男水女木子七人ゑ三人ありかけきやう
よ紙とーーーーんがさつといのるべーゑき
みてあるゑ大きなり
ちふ
この法たのきまれわ上たはたるくかりゑ

▲男水女全大ーー子七人ゑきゑて
ゆーゑーゑうちゑ井とまゑりてーー
けんぐーーゑーー
ちふ
いーーゑかゑたのきまーーゑ井のちゑひかちん

▲男大女全大ーーゑ但ゑ子三人ゑ三人
ありいゑーーゑりきゑ但ーゑーー
ちゑーーゑーーゑりあり
ちふ
いーーゑーーゑーーゑーーゑーーゑ但ゑかゑん

▲男土女ま ゑ去ゑくーーゑいまーーゑんと
ゑーーゑんーーゑ但子ゑ人ありゑーーゑひい
ゑ但ゑとーゑゑーゑゑ去ゑ月ゑーー
ちふ
ちーーゑ去ゑ井ゑゑのゑ井ゑ但ゑーゑ去ゑ但ゑ

男女相生ハ相生相剋とゑくゑ
ゑーー相生ゑーゑとーゑくーゑ解ゑーーゑ丈ゑ帰ハ
ゑ母ゑーゑーゑりゑゑゑゑ子ゑ解ゑんーゑーゑゑ
ゑーゑーゑりゑーゑ此相生相剋ゑゑ口傳ゑり
ゑーゑ相剋ゑゑゑゑ解ゑ此ゑ井ゑゑりゑゑ
ゑーゑーゑゑくゑゑ水ゑゑ但ゑゑゑ解ゑ人ゑ井
ゑゑゑば相方ゑゑゑゑ道ゑゑゑゑゑゑゑ

新撰六十之圖

子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	辛未	壬申	癸酉	甲戌	乙亥
火	土	木	水	土	水	金	火	水	火	木	木
丙子	丁丑	戊寅	己卯	庚辰	辛巳	壬午	癸未	甲申	乙酉	丙戌	丁亥
水	土	水	火	金	火	水	土	土	水	金	金
戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥
木	木	金	火	火	土	火	木	木	火	水	水
己子	庚丑	辛寅	壬卯	癸辰	甲巳	乙午	丙未	丁申	戊酉	己戌	庚亥
土	土	火	木	木	金	土	金	金	木	土	土
庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥
金	金	水	水	火	火	木	木	水	水	火	火
辛子	壬丑	癸寅	甲卯	乙辰	丙巳	丁午	戊未	己申	庚酉	辛戌	壬亥
水	水	土	土	水	水	土	土	土	土	土	土

たゝの器に常のゝりたるくべくべくべくべくべくたるくべくべくべくべくべ

跡見学園女子大学短期大学部図書館
a0010458586a

千歳緑　小本　一冊
草姫鑑　一冊
仙繪抄　一冊
増鑑　一冊
戊正月刻成
條富小路西入
吉田屋新兵衛
都書林
B4139

六歌仙の図

3 21,68.
キ中2 700

六歌仙の図

松葉貞一首千歳緑　小本　一冊
雛鶴用文章姫鑑　　一冊
女世六歌仙繪抄　　一冊
女今川増鑑　　一冊
右いづれもふれいに仕立ひなのたをひとのみやげ

文化十一年戊正月刻成
皇都書林　條富小路西入
吉田屋新兵衛

B4139